

しんまちだよりネットワーク版

地域包括ケアシステムの中の「住まい」

この場合の「地域」とは、おおむね 30 分以内に駆け付けられる程度の広さを指します。私たちは、「生活する場所」≒「住まい」を中心に学校や仕事に行き、遊びや趣味を楽しみます。「住まい」は生活の基盤です。高齢になると病気や要介護状態のため自宅を離れ、長期入院や施設入所することになる方もいます。地域包括ケアシステムは病気になっても、介護が重くなったとしても自宅を中心に医療や介護サービスを受けながら、最期まで住み慣れた地域で暮らせる体制をさしています。



暮らしやすくするために

戸建てか集合住宅か、賃貸住宅か持ち家か…また、段差が多かったり、お風呂が深かったり、皆さんそれぞれ住環境が違います。高齢者の身体状況に合わせた住環境整備の相談・アドバイスをケアマネジャーなどの専門職が行います。家具の配置など簡単な見直しから手すりの設置や段差解消など、転倒予防、日常生活動作のしやすさを確保するため、福祉用具の活用や住宅改修工事を検討します。結果、長く在宅生活を続けられることにもなります。

「住まい」を中心に行ったり来たり、「住まい」が難しくなれば施設利用

ご家族の支援のほか、自宅から通って利用するサービス（デイサービスや通院）、自宅に来てもらうサービス（訪問介護や訪問診療・訪問看護）などを利用しながら在宅生活を続けておられる方も多くいます。要介護状態が重くなると一人で過ごす時間が不安になる場合もできます。府中市ではまだ数多くありませんが、定期巡回型サービス（定時にヘルパーさんが訪問）があります。ショートステイ（短期に入所するサービス）を利用し家と施設を行き来することもできます。医療的ケアが必要な場合は病院でのショートステイや短期入院もあります。時々、施設や病院でケアを受け、介護者の負担軽減や利用者本人が専門的なケアを受ける機会の確保もできます。

それでもやっぱり自宅では無理…となることも。どこか遠くの施設への入所ではなく、「地域」にある施設で生活ができるよう整備が進められています。



地域密着型サービスの整備

住み慣れた地域の中で生活ができるよう市町村が地域の実情に合わせ「地域密着型サービス」を整備しています。デイサービス、定期巡回型サービスなど訪問系、グループホームなどの入所系サービスがありサービス事業所も高齢者以外の地域住民との交流を持ち、地域に根差した運営を求められています。顔なじみの施設の利用は利用者本人・家族にとっても安心感につながります。最期まで住み慣れた地域で生活できるよう、各市町村はこうした体制の整備を進めているところです。